

平成18年度事後評価結果（平成18年11月）

[研究開発課題名] 多言語標準文書処理システムの研究開発

[委託機関名] 沖電気工業 株式会社

| 項目 | 評価 | 総合所見 |
|------|----|---|
| 総合所見 | A | <p>(技術関係)</p> <p>初期の目標は基本的に達成し、十分に妥当な成果が得られている。特許検索に関してすでにビジネスに利用されるだけの辞書の構築につなげており、開発した翻訳テンプレートおよび辞書の自動作成技術の有用性を示していると言える。さらに、インターネット上で運用している翻訳サイトでは、一般利用者が辞書を作成することが可能となっており、うまく機能すれば Wikipedia のように非常に有用な巨大知識ベースの構築につながる可能性があると思われる。いずれの技術開発も卓越した成果を上げており、高く評価できる。ただ、分野ごとの翻訳テンプレートの自己組織化技術に関しては、実証実験等の評価が必ずしも十分なされていないが、今後の研究開発の過程での実証及びさらなる実用的完成度の向上が期待される。</p> <p>(事業化関係)</p> <p>パートナー企業であるリコーテクノシステムズ(株)の特許検索サービスRIPWAYに機械翻訳を組み合わせ、海外特許のクロスリンガル検索を可能とするサービスを提供する事業化計画である。ターゲットとしては、通常の特許検索サービスと異なり、知財部門担当者ではなく、一般の技術者を中心に経営・企画・営業や大学等での利用を想定している。本サービスは、概念検索において圧倒的な速度を誇っており、精度も既存製品よりも高い品質を持っていることから、一定のユーザ獲得が期待される。</p> |

(注) 総合所見の公表にあたっては、企業秘密等に配慮しています。